

最新IT動向と企業情報システムへのインパクト

主催：野村総合研究所 2012年5月29日（東京）

野村総合研究所（NRI）は年に2回、最新IT（情報技術）動向に関するITアナリストの調査研究の成果を公開する「ITロードマップセミナー」を開催している。今回は、「最新IT動向と企業情報システムへのインパクト」をテーマに540の方々にご参加いただいた。セミナーは4つのセッションで構成され、今後の企業情報システムへの大きな影響が予想される技術動向とビジネスへのインパクトを展望した。

第一のセッションでは、イノベーション開発部の城田真琴が「ビッグデータの真実——ビッグデータの誤解を解く」と題して、ビッグデータで誤解されやすいポイントを挙げ、そうした誤解を正すとともに、企業にとってのビッグデータ活用の勘所について解説した。城田は、ビッグデータを活用するには、Hadoop（ハドウープ）などの技術の活用や高度な分析を行うだけでなく、データを重視する企業風土や分析結果を迅速なアクションに結びつけられる組織体制を構築すべきであると指摘した。

続いて、同部の武居輝好が「M2M最前線——マシンデータがビジネスを変える」と題して、M2M（マシン・トゥ・マシン）を実現するうえでの技術動向、およびマシンデータの活用について解説した。武居は、マシンデータを収集活用するための要素技術が出揃い、M2Mシステム構築が容易になってきたことを指摘し、企業がマシンデータを活用するには、まず工場・店舗設備や自社製品など自社内で取得しやすいデータから活用を始めるべきと提言した。

次に、同部の田中達雄が「エクスペリエンステクノロジー最新動向——台頭するダイナミック・ケー

ス・マネジメント」と題して、データの分析、実行、改善のサイクルを同一プラットフォーム上で実現する技術であるダイナミック・ケース・マネジメントの最新動向について解説した。田中は、顧客経験価値の高いマーケティング・営業・接客を実現するには、仮説と検証を短いサイクルで繰り返し、勝ちパターンをいち早く見つけることが重要であり、これを実現するためにはダイナミック・ケース・マネジメントが有望であることを指摘した。

最後のセッションでは、同部の藤吉栄二が「スマートデバイス最前線——拡大するスマートデバイスへの期待と課題」と題して、スマートデバイスを取り巻く技術動向およびスマートデバイスが抱えるセキュリティリスクについて考察した。藤吉は、スマートデバイス市場・サービスが急拡大するなか、セキュリティやプライバシーに対する懸念が高まりつつあり、企業はMDM（モバイルデバイス管理）等の技術の活用やセキュリティポリシーの策定などの対策を検討すべきと提言した。

本セミナーの講演内容は、USTREAM（ユーストリーム）で同時配信され、多くの方々に視聴いただいた。なお、現在USTREAMのWebサイトで本セミナーのアーカイブが視聴可能となっている。

イノベーション開発部のITアナリストの調査研究の成果は、東洋経済新報社から『ITロードマップ2013年版——情報通信技術は5年後こう変わる』と題して2012年末に刊行される予定である。

本セミナーについてのお問い合わせは下記へ

ITロードマップセミナー事務局

電子メール：it-rm-qa@nri.co.jp